女性学　実践編

アイドル進化論（変化論）
山口百恵からモーニング娘。へ

アイドルスターの誕生

アイドル　とは　清純　という虚構上の産物

清純　＝　処女性
☆　性における
男性の圧倒的性の優位性を確保
（背後には）
見た目・性等で比較されることの不慣れ

山口百恵のデビュー戦略

従来のアイドルより若い

15歳というデビュー

絶対の処女性を確保

マイノリティーの肯定

不良、気が強い

性の肯定

つまり
「性」を肯定して
エロくていいけど
本当は
清純なんよね
という妄想

不良の
ふり

性を肯
定する
ふり

という
幻想

山口百恵って…よく知らない

性の肯定　を　歌う百恵

禁じられた遊び

恐くない 恐くない
あなたとだったら 何でも出来る
離れない 離れない
あなたとだったら 何処でも行ける
稲妻みたいな 赤いひらめき
私の躰をかけめぐる
生まれて初めて 人を愛して
私の心は乱れそう
今こそ私は 変ってゆくわ
カラを脱ぎ捨てる
惜しくない 惜しくない
あなたが望めば 何でも捨てる

破らない 破らない
あなたとだったら 秘密は守る
悔やまない 悔やまない
あなたとだったら 何でも耐える
ローソクみたいな 燃える炎に
私の躰は熱くなる
思いもよらない 愛の痛みが
私の心につきささる
今こそ私は 変ってゆくわ
カラを脱ぎ捨てる
惜しくない 惜しくない
あなたが望めば 何でも捨てる

性の肯定　を　歌う百恵

ひと夏の経験

あなたに　女の子のいちばん　大切なものを　あげるわ
小さな胸の　奥にしまった　大切なものを　あげるわ
愛する人に　捧げるために　守ってきたのよ
汚れてもいい　泣いてもいい　愛は尊いわ
誰でも一度だけ　経験するのよ　誘惑の甘い罠

性の肯定 を 歌う百恵

イミテイション・ゴールド

シャワーのあとの 憂のしずくを
乾いたタオルで ふきとりながら

彼が窓辺で 話しかけるわ
流れる雲さえ 季節の色だと
私は軽いめまいを感じ
マニキュアの指 かざしてみるの
ア・ア・ア イミテイション・ゴールド
ア・ア・ア やけた素肌が
ア・ア・ア イミテイション・ゴールド
若いとおもう 今年のひとよ
声がちがう 年がちがう
夢がちがう ほくろがちがう ごめんね
去年のひとと またくらべている

性の肯定 を 歌う百恵

プレイバックPart2

緑の中を走り抜けてく真紅なポルシェ
一人旅なの私気ままにハンドル切るの
交差点では隣りの車がミラーこすったと
怒鳴っているから
私もついついい大声になる
馬鹿にしないでよ そっちのせいよ
ちょっと待って Play Back Play Back
今の言葉 Play Back Play Back
馬鹿にしないでよ そっちのせいよ
これは昨夜の私のセリフ
気分次第で抱くだけ抱いて
女はいつも待ってるなんて
坊やいったい何を教わって来たの
私だって 私だって 疲れるわ

百恵のもう一つのテーマ

性の肯定

両者が補完しあっている関係

一途な一人の人への想い

実は
非常に
ヤンキー的
恋愛観に近い
ことに
注目

一人の信じた男性のみを追いかける
受け身の恋

性の肯定 の裏にある 一途な想いというテーマ

禁じられた遊び

恐くない 恐くない
あなたとだったら 何でも出来る
離れない 離れない
あなたとだったら 何処でも行ける
稲妻みたいな 赤いひらめき
私の躰をかけめぐる
生まれて初めて 人を愛して
私の心は乱れそう
今こそ私は 変ってゆくわ
カラを脱ぎ捨てる
惜しくない 惜しくない
あなたが望めば 何でも捨てる

破らない 破らない
あなたとだったら 秘密は守る
悔やまない 悔やまない
あなたとだったら 何でも耐える
ローソクみたいな 燃える炎に
私の躰は熱くなる
思いもよらない 愛の痛みが
私の心につきささる
今こそ私は 変ってゆくわ
カラを脱ぎ捨てる
惜しくない 惜しくない
あなたが望めば 何でも捨てる

性の肯定 の裏にある 一途な想いというテーマ

ひと夏の経験

あなたに 女の子のいちばん 大切なものを あげるわ
小さな胸の 奥にしまった 大切なものを あげるわ
愛する人に 捧げるために 守ってきたのよ
汚れてもいい 泣いてもいい 愛は尊いわ
誰でも一度だけ 経験するのよ 誘惑の甘い罠

性の肯定 の裏にある 一途な想いというテーマ

イミテイション・ゴールド

シャワーのあとの 憂のしずくを
乾いたタオルで ふきとりながら

彼が窓辺で 話しかけるわ
流れる雲さえ 季節の色だと
私は軽いめまいを感じ
マニキュアの指 かざしてみるの
ア・ア・ア イミテイション・ゴールド
ア・ア・ア やけた素肌が
ア・ア・ア イミテイション・ゴールド
若いとおもう 今年のひとよ
声がちがう 年がちがう
夢がちがう ほくろがちがう ごめんね
去年のひとと またくらべている

性の肯定　の裏にある　一途な想いというテーマ

プレイバックPart2

緑の中を走り抜けて真紅なポルシェ
一人旅なの私気ままにハンドル切るの
交差点では隣りの車がミラーこすったと
怒鳴っているから
私もついつい大声になる
馬鹿こしないでよ そっちのせいよ
ちょっと待って Play Back Play Back
今の言葉 Play Back Play Back
馬鹿こしないでよ そっちのせいよ
これは昨夜の私のセリフ
気分次第で抱くだけ抱いて
女はいつも待ってるなんて
坊やいったい何を教わって来たの
私だって 私だって 疲れるわ

あたしやっぱり
あたしやっぱり

帰るわね

あなたの元へ

プレイバック

百恵の変化

反社会的言動（ヤンキー的青春）

↓

一人の男性を追い求める恋愛

↓

全てを捨てて、その人の為に生きる

↓

専業主婦として、家族（夫、子供）の為に生きる親の気持ちに同化

親の気持ちに同化する百恵

秋桜

淡紅の秋桜が秋の日の
何気ない鳴り響きに揺れている
此頃涙脆くなった母が
庭先でひとつ咳をする

縁側でアルバムを開いては
私の幼い日の思い出を
何度も同じ話くり返す
独言みたいに小さな声で

こんな小春日和の穏やかな日は
あなたの優しさが 浸みて来る
明日嫁ぐ私に 苦労はしても
笑い話に時が変えるよ
心配いらないと 笑った

あれこれと思い出をたどったら
いつの日もひとりではなかったと
今更乍ら我侭な私に
唇かんでいます

明日への荷造りに手を借りて
しばらくは楽しい気にいたけれど
突然涙こぼし 元気でと
何度も何度もくり返す母

ありがとうの言葉をかみしめながら
生きてみます私なりに
こんな小春日和の穏やかな日は
もう少しあなたの子供で
いさせてください

親の気持ちに同化する百恵

いい日旅立ち

雪解け間近の北の空に向い
過ぎ去りし日々の夢を叫ぶ時
帰らぬ人達　熱い胸をよぎる
せめて今日から一人きり　旅に出る
あゝ日本のどこかに
私を待ってる人がいる
いい日　旅立ち　夕焼けをさがしに
母の背中で聞いた歌を道連れに…

岬のはずれに少年は魚釣り
青いすすきの小径を帰るのか
私は今から　想い出を創るため
砂に枯木で書くつもり"さよなら"と
あゝ日本のどこかに
私を待ってる人がいる
いい日　旅立ち　羊雲をさがしに
父が教えてくれた歌を道連れに…

さよならの向こう側

何億光年 輝く星にも 寿命があると
教えてくれたのは あなたでした
季節ごとに咲く一輪の花に 無限の命
知らせてくれたのも あなたでした
last song for you,last song for you
約束なしの お別れです
last song for you,last song for you
今度はいつと言えません
あなたの燃える手 あなたの口づけ
あなたのぬくもり あなたのすべてを
きっと 私 忘れません 後姿 みないで下さい

☆
Thank you for your kindness
Thank you for your tenderness
Thank you for your smile
Thank you for your love
Thank you for your everything さよならのかわりに

☆ repeat
さよならのかわりに さよならのかわりに

去ってゆく百恵

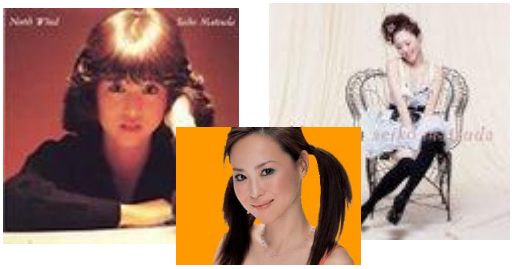
人気絶頂の中

一人の男性を選び
その男性の為に
惜しまれつつ去る
トップアイドルそのためにあるかの様な楽曲
伝説となるラストコンサート
有言実行＝絶対に芸能界復帰しない

百恵の歌詞　まとめ

①、処女性をキープしたままの性の肯定
②、マイノリティへの共感
③、一人の男性への絶対的盲従
④、大人への成長とともに母への共感
↓　↓
70年代の若い女性への「期待の地平」

松田聖子



松田聖子の虚構の戦略

①未熟な肉体性（対百恵）
②健康美の欠如（対郁恵）
③本物の無垢（対初期清純派アイドル）

虚構の「少女」性

聖子は**虚構**のアイドル

虚構の地　→　何処にもない場所（だから日本でもない）

「瑠璃色の地球」

夜明けの来ない夜は無いさ
あなたがポツリ言う
煙台の立つ岬で
暗い海を見ていた

悩んだ日もある哀しみに
くじけそうな時も
あなたがそこにいたから
生きて来られた

朝陽が水平線から
光の矢を放ち
二人を包んでゆくの
瑠璃色の地球

虚構の「男」→　気の弱い彼 →　能動的な恋愛ゲーム

「渚のバルコニー」

渚のバルコニーで待ってて ラベンダーの
夜明けの海が見たいの そして秘密

右手に缶コーラ 左手には白いサンダル
ジーンズを濡らして 泳ぐあなた
あきれて見てる
馬鹿ね 呼んでも無駄よ
水着持ってない
渚のバルコニーで待ってて やがて朝が
霧のヴェールで二人を 包みこむわ
I love you so love you もう離さないで
あなたを愛してる

白いパラソル

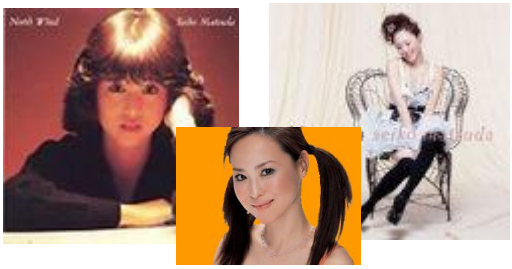
お願いよ 正直な
気持ちだけきかせて
髪にジャスミンの花
夏のシャワー浴びて
青空はエメラルド
あなたから誘って
素知らぬ顔はないわ
あやふやな人ね
渚に白いパラソル
心は砂時計よ
あなたを知りたい
愛の予感

虚構の家族　→ママへの裏切り→　母の否定

「秘密の花園」

月灯り青い岬に
ママの眼をぬすんで来たわ
真夜中に呼び出すなんて
あなたってどういうつもり
真面目にキスしていいのなんて
ムードを知らない人 アー あせるわ
Moonlight magic 私のことを
口説きたいなら三日月の夜
Hold me tight 入江の奥は
誰も 誰も知らない 秘密の花園

変化し続ける松田聖子



青色のタペストリー

実体がない虚像
①、縛られたい←→自己決定
②、幸福な家庭←→離婚準備
③、可愛さ←→封建的
④、感謝←→わがまま

徹底的に矛盾する主体像

変化してゆくこと

アイドルのカリスマ性
その本人固有の魅力

芸能人は、
何らかの絶対的
魅力の具現化

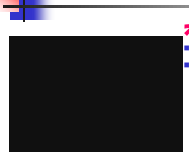
変化してゆく主体
変化してゆくならば主体はいらない
↓　↓
普通の人々／アイドル　の境界があいまい

集団化・普通化してゆくアイドル

オールナイトフジ

- 1983年4月2日に放送開始。
- タイトルこそ『オールナイトニッポン』を意識しているが、番組内容は素人の現役女子大生を多数起用し、文化放送の『ミスDJリクエストパレード』(川島なお美、千倉真理、川口雅代ら女子大生DJが日替わりで担当していた)のテレビ版といった感もあった。深夜放送ブーム、**女子大生ブーム**の火付け役となった。
- 初代司会は秋本奈緒美と鳥越マリ。主な出演者には、デビューしたばかりのとんねるずや片岡鶴太郎。出演している女子大生たちは"オールナイターズ"と称され、タイトルバックでレオタード姿で踊ったり、またアダルトビデオ紹介コーナーで恥ずかしそうに作品を紹介したりして、男性ファンの心をくすぐった。生放送であり、当時、新宿区河田町にあったフジテレビ前には、オールナイターズ目当てに多くの男が集まったという。
- 放送開始当初はアダルトビデオ紹介コーナーや性風俗店探訪といった性風俗を扱ったコーナーがあったが、放送開始から一年半たった1984年の10月改編で他の民放キー局が同様の生番組を一斉にスタートさせた。
- 番組構成者の中には**秋元康**もおり、彼は後述の**『夕やけニャンニャン』**立ち上げにも関わった。

オールナイトフジ



オールナイトフジ

- 1983年4月2日に放送開始。
- タイトルこそ『オールナイトニッポン』を意識しているが、番組内容は素人の現役女子大生を多数起用し、文化放送の『ミスDJリクエストパレード』(川島なお美、千倉真理、川口雅代ら女子大生DJが日替わりで担当していた)のテレビ版といった感もあった。深夜放送ブーム、**女子大生ブーム**の火付け役となった。
- 初代司会は秋本奈緒美と鳥越マリ。主な出演者には、デビューしたばかりのとんねるずや片岡鶴太郎。出演している女子大生たちは"オールナイターズ"と称され、タイトルバックでレオタード姿で踊ったり、またアダルトビデオ紹介コーナーで恥ずかしそうに作品を紹介したりして、男性ファンの心をくすぐった。生放送であり、当時、新宿区河田町にあったフジテレビ前には、オールナイターズ目当てに多くの男が集まったという。

オールナイトフジデータ

- 司会
- 秋本奈緒美(1983年4月-1984年9月)
- 鳥越マリ(1983年4月-1984年9月、1985年10月-1986年3月)
- 松本伊代(1984年10月-1986年3月、後に姉妹番組『夕やけニャンニャン』でも司会を担当している)
- 中村あずさ(1987年11月-1988年2月)
- 石野陽子(現:いしのようこ)(1987年11月-1988年2月)
- 杉本彩(1987年11月-1988年2月)
- 森尾由美(1988年3月-1988年9月)
- 麻木久仁子(1988年3月-1988年6月)
- 有賀さつき(当時アナウンサー、1989年9月-1990年6月)
- 田中美奈子(1989年9月-12月)
- 千堂あきほ(1990年7月-1991年3月)

オールナイトフジデータ

オールナイターズ(初代～2代目)

- 末松千鶴(現・フジテレビ総務部長)
- 立見里歌(その後、おニャン子クラブへ)
- 内海和子(その後、おニャン子クラブへ)
- 古田知恵美 ほか多数

オールナイターズ(3代目)

- 岩見真弓 ほか多数

[redacted]

実は、ほとんど現在は、生き残っていない！！

オールナイトフジデータ

その他

- とんねるず
- B21スペシャル(1989～1991まで司会格で出演)
- 七瀬なつみ
- 森田典子(青田典子)
- 片岡鶴太郎(1984～1985まで司会格で出演)
- 小森和子
- 田代まさし(1988,2～9まで司会格で出演)
- 桑野信義
- ダチョウ倶楽部
- 所ジョージ
- 稲川淳二
- 大竹まこと
- 松村邦洋

結構、今も生き残っているタレントがいる！！

集団化・普通化してゆくアイドル

『オールナイトフジ』と『夕やけニャンニャン』

- 平日の夕方にANFの高校生版としてスタートしたのが、同じく一世を風靡した伝説的番組である**夕やけニャンニャン**である。スタッフ陣はオールナイトフジとほぼ同じ。路線的にも素人の女子学生でグループを構成し、歌を出す・写真集を出すなどして「安い費用で自前のタレントを作り出し、視聴者と共に育てていく」路線を確立した。
- オールナイトフジと違い、平日夕方の帯番組であり、おニャン子の人気上昇と共にネット局が増たが、“おニャン子”人気の低落や番組自体のパワーダウンもあり、惜しまれつつ1987年8月一杯で終了した。**とんねるず**はこの両番組をきっかけにブレイクしたと言っても過言ではない、番組後半には、自らの番組も多忙になり、出演回数も減ったため夕やけニャンニャンの終了に結びついた。

夕焼けニャンニャン

- 1985年4月1日から1987年8月31日の平日17:00～17:55(末期は～18:00。最終回は16:00からの2時間スペシャル)に放送された。当初の司会進行役は片岡鶴太郎、松本小雪だった。
- 元々は、女子大生をメインとした深夜番組『オールナイトフジ』の延長線上で企画・放送された「オールナイトフジ女子高生スペシャル」から派生したもの。「女子高生スペシャル」は関東ローカルで2回放送され(土曜午後4時から90分の単発枠)、2回目を放送する時点では「夕やけニャンニャン」スタートを前提においた「初期おニャン子決定」という意図も持たせていた。

[redacted]

アイドルの変化

①、「手の届かないスター」から「隣のお姉さん的アイドル」へ(社会的出待ち現象)

多くのスタッフとの結婚→アイドル幻想崩壊

②、芸能事務所やレコード会社主導から番組でプロモーションへ(局アイドルの弊害)

③、電リク、ベストテン　などから　オリコン　へ

夕焼けニャンニャンデータ

歴代司会者

- 片岡鶴太郎・松本小雪（全曜日）－1985,4～1985,9
- 吉田照美（月・水）／稲川淳二（火）／田代まさし（木）／松本小雪（全曜日）－1985,10～1986,4
- 吉田照美（月・木）／稲川淳二（火）／上柳昌彦（水）／田代まさし（金）／松本小雪（全曜日）－1986,4～1986,9
- 吉田照美（月・水）／稲川淳二（火）／田代まさし（木）－1986,10～1987,3
- 田代まさし・松本伊代（全曜日）／吉田照美・所ジョージ・大竹まこと（曜日ごとに出演）－1987,4～1987,8
- ※とんねるずについては正式な司会進行役ではないが、鶴太郎降板後は曜日毎の司会者がいない場合につき、「アイドルに探せ」などのコーナー進行を行ったり、伝説となった「ゴジテレビ」（コントコーナー）を受け持つなど、事実上のサブ司会格として活躍。おニャン子と並ぶ番組全期を通じての中心的出演者であったことは言うまでもない。

夕焼けニャンニャンデータ

- 稲川淳二（1985年10月～1987年3月まで火曜司会）
- 逸見政孝（当時：フジテレビアナウンサー）
- デーブ・スペクター
- ABブラザーズ
- 中山秀征
- デーモン小暮
- とんねるず
- 吉村明宏
- 野沢直子
- 薬丸裕英
- 布川敏和

[redacted]

おにゃん子クラブの終焉

[redacted]

夕焼けニャンニャンデータ

- 奥田美香 - 1985年4月25日、**週刊文春横領事件**で降板（番組スタート1ヵ月経過持たず）。その後、雑誌でヌード。
- 榎田道子 - 1985年4月25日 **週刊文春横領事件**で降板。
- 吉野佳代子 - 1985年4月25日 **週刊文春横領事件**で降板
- 新田恵利 - 第二回卒業生。フジテレビ社員と結婚。一時期芸能活動を休止していたが現在は復帰。
- 中島美春 - 第一回卒業生。とんねるずのマネージャー、ボブと結婚。
- 友田麻美子 - 1985年4月25日**週刊文春横領事件**で降板。
- **国生さゆり - 第五回卒業生。現在も芸能活動中。結婚→離婚→(元夫と)再婚。**
- 佐藤真由美 - 1985年4月25日**週刊文春横領事件**で降板。
- 河合その子 - 第一回卒業生。引退後後藤次利と結婚。
- 内海和子 - 第五回卒業生。1974年に子役でデビュー。解散後、ヌード写真集を発表。
- 高井麻巳子 - 1988年、秋元康と結婚、引退。高井ファンに、大ショックを与えた。
- 城之内早苗 - 解散時メンバー。現在は演歌歌手として活動中。2004年に番組プロデューサーと結婚。
- 岩井由紀子 - 解散時メンバー。一時期愛称の「ゆうゆ」で活動。1998年に結婚、引退。
- 山本スーザン久美子 - 第二回卒業生。おニャン子唯一のハーフ。
- 布川智子 - 解散時メンバー。元シブがき隊の布川敏和の妹。
- **渡辺美奈代 - 解散時メンバー。現在も芸能活動中。2005年、お笑いトリオ・ネプチューンの名倉潤と結婚。**
- 大黒かおり - 合格後番組に一日だけ出演。元モモコクラブ（桃組No.1809）タレント・モデルとして活動中。
- **工藤静香 - 解散時メンバー。元モモコクラブ（桜組No.480）。現在も歌手として活動中。SMAPの木村拓哉とできちゃった結婚。**
- 生稲晃子 - 解散時メンバー。解散後にソロデビュー。その後も芸能活動を行っており、結婚、出産を機に活動を休止していたが再開した。
- 我妻佳代 - 解散後にソロデビュー。現在も芸能活動中。芹沢直美の妹。結婚一離婚。
- 杉浦美雪 - B組2番。ミス・セブンティーン特別賞。解散後は、レースクイーンに。現在はモデル（芸名は杉浦未幸）。

アイドル冬の時代

80年代後半より～現在？　象徴＝松田聖子の結婚休暇

①、おにゃんこクラブメンバーの使い捨て批判

解散により元メンバーとなった者たちの大多数は、フジテレビの庇護からそのまま放り出される形で芸能界の激烈な生き残り競走に晒され、少なからぬ元メンバーが短期間の内に芸能界の華やかな場所から姿を消していった。既にソロ・デビュー等で独自に専属事務所に所属していたメンバーは、各々の芸能活動を展開・継続出来た。しかし、最後まで芸能事務所から勧誘の声が掛からなかったフジ専属メンバーは、番組スタッフにより芸能界から引退して「一般人の生活」へ戻る様に説得された。

②、踏み台にしてのし上がった男性タレントたち

③、ザ・ベストテンなどの大型歌番組の終了

④、アイドルの幻想消失　素人への幻滅

モーニング娘。の戦略

①、再びプロダクション制へ

ただし、番組プロデュース性を併用

②、素人から　プロへ

ダンス・歌・演技・お笑い　全てを指導

③、カタログとしてのグループ（年齢差、キャラ）

④、中心・実体のないグループ

（エース不在としてのグループ）

⑤、東京パフォーマンスドール　EXILE　宝塚歌劇団　SMAP　SPEED　の要素を取り入れた戦略

日時	メンバー	増減	人数	平均年齢
1997年9月7日結成	【1期】**中澤裕子・石黒彩・保田圭・後藤真希・安倍なつみ・飯田圭織・吉澤ひとみ**	-	5人	17.40
1998年5月3日	【2期】**矢口真里・矢口真里・市井紗耶香**加入	+3	8人	16.75
1999年4月18日	福田明日香脱退	-1	7人	18.29
1999年8月22日	【3期】**石黒彩・辻希美**加入	+1	8人	18.00
2000年1月7日	石黒彩脱退	-1	7人	18.14
2000年4月16日	【4期】**石川梨華・吉澤ひとみ・辻希美・加護亜依**加入	+4	11人	16.55
2000年5月21日	市井紗耶香脱退	-1	10人	16.60
2001年4月15日	中澤裕子卒業	-1	9人	16.56
2001年8月26日	【5期】**高橋愛・新垣里沙・保田圭・小川麻琴・新垣里沙**加入	+4	13人	15.77
2002年9月23日	後藤真希卒業	-1	12人	16.92
2003年1月19日	【6期】**藤本美貴・亀井絵里・道重さゆみ・田中れいな**加入	+4	16人	16.56
2003年5月5日	保田圭卒業	-1	15人	16.47
2004年1月25日	安倍なつみ卒業	-1	14人	16.86
2004年8月1日	加護亜依・辻希美卒業	-2	12人	17.42
2005年1月30日	飯田圭織卒業	-1	11人	17.64
2005年4月14日	矢口真里がモーニング娘。を辞し、ソロ活動	-1	10人	17.40
2005年5月1日	【7期】**久住小春**加入	+1	11人	16.91
2005年5月7日	石川梨華卒業	-1	10人	16.70
2006年7月23日	紺野あさ美卒業	-1	9人	17.78
2006年8月27日	小川麻琴卒業	-1	8人	17.75
2006年12月10日	【8期】**光井愛佳**加入	+1	9人	17.78
2007年3月15日	【8期】(留学生) **ジュンジュン・リンリン**加入	+2	11人	17.82
2007年5月6日	吉澤ひとみ卒業	-1	10人	17.50
2007年6月1日	藤本美貴がモーニング娘。を辞し、ソロ活動	-1	9人	17.00

歴史。（1998年）

- 1998年1月28日にメジャーデビューを果たす。デビュー曲の『モーニングコーヒー』はオリコンシングルチャート6位に入る。
- 1998年4月～6月に初主演テレビドラマ「太陽娘と海」（テレビ東京、平家みちよと共演）が放送される。その間の5月に追加メンバーとして保田圭・矢口真里・市井紗耶香が加入し、同月27日に2ndシングル『サマーナイトタウン』が発売され、オリコンシングルチャート4位に入る。
- 1998年7月に東京・渋谷公会堂（現・渋谷C.C.Lemonホール）で初のコンサートを行う。
- 1998年夏に初主演映画「モーニング刑事。～抱いてHOLD ON ME!～」1998年9月6日の新聞の番組表で、初めて「モー娘」という略称表記が登場する。
- 続く3rdシングル**『抱いてHOLD ON ME!』（同月9日発売）で初のオリコンシングルチャート1位を獲得した。またオリコンカラオケチャートでは8週連続1位を達成。この曲で同年の第40回紅白歌合戦に日本レコード大賞最優秀新人賞を受賞、またNHK紅白歌合戦も第49回で初出場を果たす。**
- 1998年10月に最初の「グループ内ユニット」である「タンポポ」の結成が発表され、翌11月18日に『ラストキッス』でデビューした。

歴史。（1999年）

- 1999年3月から初の全国ツアーを行い、7都市・19公演で約4万人を動員した。
- 1999年1月に福田が学業優先を理由に脱退を表明して、4月18日のコンサートを以て脱退した。その後しばらくは人気に陰りが見え、7月14日に鈴木亜美（当時は鈴木あみ）がTM NETWORKのヒット曲をカバーした「BE TOGETHER」と同日発売としてASAYANで煽られた6thシングル『ふるさと』ではオリコンシングルチャート5位まで落ち込む。
- しかし、9月には第3期メンバーの**後藤真希加入後に発売した『LOVEマシーン』（同月9日発売）で再ブレイク**し、ミリオンセラー（195万枚）となり、オリコンカラオケチャートでも当時の新記録である17週連続1位を達成した。18週目の1位を阻止したのがモーニング娘。のグループ内ユニットである「プッチモニ」の『ちょこっとLOVE』（11月25日発売）であった。その曲もミリオンを突破し、一気

歴史。（2000年）

- 2000年に入ると、直後の1月26日に『恋のダンスサイト』が発売され、オリコンによると約123万枚の売り上げを記録した。その後、『ハッピーサマーウエディング』（5月17日発売）や『恋愛レボリューション21』（12月13日発売）も100万枚を超える大ヒットを記録した。
- 石黒彩が2000年1月8日に卒業した後、4月には4期メンバーとして**石川梨華・吉澤ひとみ・辻希美・加護亜依が加入し、さらに翌5月には市井紗耶香が卒業した。**
- この頃から中国ブレンド茶「飲茶楼」（2月、JT）や「Dream Net」（4月、現・OCN）を始めCMに多く出演するようになる。また、本グループがメインで出演する単発特別番組も放送されるようになる。
- 2000年3月29日に発売されたサードアルバム『3rd～LOVEパラダイス～』で初のミリオンを達成した。

2001年1月31日に発売された初ベストアルバム『ベスト! モーニング娘。1』がトリプルミリオンに迫る売り上げを記録した。

歴史。（2001年）

- この頃、ほとんど毎週のように「うたばん」（TBS系）にゲスト出演し、個人の知名度が一気に向上する（2006年9月22日に放送された『とくばん』で発表された同番組へのゲスト出演回数は第1位）。
- また、「めちゃ2イケてるッ!」（フジテレビ系）の中でも『私立岡村女子高等学校。』として各メンバーの個性にクローズアップした企画が何度か放送された。同番組では国民的アイドルグループと紹介され、これ以降マスコミ各社も国民的アイドルと形容するようになった。
- 同グループとして初のゴールデンタイムでのレギュラーテレビ番組『モー。たいへんでした』（日本テレビ系）も始まる（2001年4月～2002年3月）。

- 2001年4月16日に初代リーダーだった**中澤裕子が卒業し、同時に後任のリーダーに飯田圭織が就任、飯田より年上だった保田圭はサブリーダーに就任した。**
- 2001年5月3日～27日に初主演ミュージカル『LOVEセンチュリー～夢は見なけりゃ始まらない～』を東京・日生劇場で上演した。これには既に卒業していた中澤裕子も出演した。
- 2001年8月には、人気芸能人の証と言われる24時間テレビ「愛は地球を救う」（日本テレビ系）のメインパーソナリティとなる。この年の企画やドラマ『最後の夏休み』（安倍なつみ主演）が好評で、翌2002年8月も2年連続でメインパーソナリティを務める。
- 2001年8月26日にテレビ東京系で放送された『LOVEオーディション21』の結果、5期メンバーとして高橋愛・紺野あさ美・小川麻琴・新垣里沙が加入し、史上最多（当時）の13人体制となる。

歴史。（2002～2003年）

- 2002年に入ると、1月2日にスペシャルドラマ『モーニング娘。新春!LOVEストーリーズ』（TBS系）が放送され、5月24日～6月23日にはミュージカル『モーニング・タウン』を上演した。

- なお、**この後、メンバーの卒業発表は卒業期日よりかなり前に発表されることになる。**特に2003年8月の安倍なつみの卒業決定から2005年5月の石川梨華の卒業までの間は常に「卒業時期がすでに決定しているメンバー」が在籍していた。

- 2003年1月には、『LOVEオーディション2002』の合格者発表（最終選考に残った亀井絵里・道重さゆみ・田中れいなの3人共加入）を前に、2002年3月からソロで活動していた**藤本美貴の加入**が発表される。藤本も含めてメンバーは史上最多（2006年12月現在まで）の16人となる（ただし16人での活動は同年5月の保田圭の卒業コンサートのみで、それまでに発売されたシングル2枚およびアルバム1枚は12人で出している。）。
- 2003年5月31日～6月29日につんく♂と五木ひろしの共同プロデュースによるミュージカル『江戸っ娘。忠臣蔵』を上演した。
- 2003年9月には、新展開として15人のメンバーを『モーニング娘。さくら組』『モーニング娘。おとめ組』の2つに分けての活動も開始し、それぞれシングルCDを2枚ずつリリースし、組ごとの全国ツアーも行った。しかし、辻希美と加護亜依の卒業後は正式なアナウンスがないまま2組共活動休止状態となる。

歴史。（2004年以降）

- 2004年1月に長くエース格にあった安倍なつみが卒業した。さらに同月には辻希美と加護亜依が揃っての卒業発表、そして5月には飯田圭織と石川梨華の卒業も発表され、人気メンバーが相次いで卒業することになる。
- 2004年5月29日～6月13日にミュージカル『HELP!熱っちい地球を冷ますんだっ』を上演した。その後19日と20日には幕張メッセで初の「モーニング娘。“熱っちい地球を冷ますんだっ。”文化祭」を開催した。この時期には小池百合子環境大臣を表敬訪問するなど、環境問題について真剣に取り組むイベントが増える。
- 2004年8月には**辻希美と加護亜依が揃って卒業した**。この時既に2人はユニット「W」を結成し、活動を開始していた。
- 2004年末から放送していた松浦亜弥と共演したEPSON「カラリオ」のCM終了後、**モーニング娘。としてのテレビCM出演がなくなる**。またこの頃からモーニング娘。メイン出演の単発特別番組が編成されなくなった。
- 2005年1月に2代目リーダーだった**飯田圭織が卒業し、結成当時の第1期メンバーはすべて卒業した**。

教育＝再生産の制度

このグループには、「教育係」という名目で先輩が後輩に指導するならわしがある。中でも3・4期メンバーでは「ASAYAN」で教育指導の模様が放送されている。

■2期メンバー
- 教育係の制度はなかった。しかし、ASAYANでは中澤裕子が叱っている姿が放送された。

■3期メンバー
- 市井紗耶香→後藤真希

■4期メンバー
- 保田圭→石川梨華（テーマ：歌）
- 矢口真里→吉澤ひとみ（テーマ：表現力）
- 飯田圭織→辻希美（テーマ：リズム）
- 後藤真希→加護亜依（テーマ：挨拶、礼儀）

■5期メンバー
- 教育係の制度はない。
  - なお、2001年11月2日に放送されたミュージックステーション（テレビ朝日系）での5期メンバー初登場時に、吉澤ひとみ→高橋愛、矢口真里→小川麻琴、安倍なつみ→村田めぐみ、矢口真里→新垣里沙、という移行点わけ変則メンバーの紹介を行っただが、この組み合わせが教育係だと言われたこともあったが、後にメンバーのによって明確に否定されている。

■6期メンバー
- 教育係という呼び方はされなかったが、代わりに「6期メンバーとほぼ入れ替わりで卒業する保田圭が6期メンバーにモーニング娘。の精神を伝える」という企画が2003年5月11日の「ハロー!モーニング。」（テレビ東京系）で放送された。なお、2007年11月に行われたYahoo!ライブトークでは保田圭が6期メンバーの教育係であったとされている。

■7期メンバー
- 道重さゆみ→久住小春

モーニング娘。の崩壊

①、後藤真希の引退→ソロでの失敗
②、安倍なつみの不祥事事件
③、加護亜衣の不祥事事件
④、辻希美の妊娠引退
⑤、 矢口真理と藤本美貴の
熱愛報道引責引退

モーニング娘。末期症状

脱主体化＝象徴社会への適応

主体＝固定的・普遍的な統一体

↓

脱主体　その都度変化してゆくキャラを担う

↓

~~本当の主体~~　キャラがその都度の本当

まとめ

①、**「キャラ」による、実体の希薄化（脱主体化）**
（幻想の無効性＝アイドルの消失？）
②、性のひきうけ方
グラビアアイドル等の進出
③、求められる女性性の細分化
ビックアイドルの不在
④、アイドル不要論（女優・グラドル・タレント・歌手）